

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：12604  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2020～2023  
 課題番号：20K02533  
 研究課題名（和文）国際バカロレア「言語A」概念理解における読解力育成の効果測定と実践開発研究

研究課題名（英文）Measuring the effectiveness of reading comprehension development in conceptual understanding of the International Baccalaureate "Language A" and research on practical development.

研究代表者  
 中村 純子（Nakamura, Sumiko）  
 東京学芸大学・教職大学院・准教授

研究者番号：70761625  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：21世紀型学力として、国語科教育で育成すべき読解力は、概念理解型読解力であることを明らかにした。概念理解とは、国際バカロレア教育プログラムの基盤となる理論である。概念を通して物事の本質を見抜き、知識を体系立て、汎用性のある転移可能な理解の構築を目指す。PYPではセントラルアイデア、MYPでは探究テーマという単元の目標を設定し、探究活動を展開していく。DPでは概念的問いが最終課題として出題される。こうしたカリキュラムの系統性やIB校での実践の参与観察や、実践事例の交流を通して、指導方略の開発を行った。この方略は一条校の国語科の授業でも活用できるものであることを大学の授業で検証することができた。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

21世紀型学力として、国語科教育で育成すべき読解力は、概念理解型読解力であることを明らかにした。概念理解とは、国際バカロレア教育プログラムの基盤となる理論である。概念を通して物事の本質を見抜き、知識を体系立て、汎用性のある転移可能な理解を構築することである。概念的な探究テーマを単元の目標とし、探究型の学習を行う。概念的問いをもって理解を質的に評価する。本研究では小中高のカリキュラムの系統性を明らかにし、実践開発及び指導方略の解明を行った。研究成果として、MYP「言語と文学」の実践事例集と、PYPの探究の単元の作り方に関する書籍を明治図書より出版し、啓蒙に努めたことが大きな成果と言える。

研究成果の概要（英文）：It was clarified that the reading comprehension that should be cultivated in Japanese language education as a 21st century academic ability is conceptual comprehension. Conceptual understanding is the theory that forms the basis of the International Baccalaureate education program. The aim is to see through the essence of things through concepts, organize knowledge, and build versatile, transferable understanding. In the PYP, a central idea is set as a unit goal, and in the MYP, an inquiry theme, and inquiry activities are carried out. In the DP, a conceptual question is set as the final assignment. Through the systematic nature of this curriculum, participant observation of practices at IB schools, and the exchange of practical examples, a teaching strategy was developed. It was possible to verify in university classes that this strategy can also be used in Japanese language classes at regular schools.

研究分野：国語科教育

キーワード：国語科教育 国際バカロレア教育 コンセプト 探究 読解力 概念 概念理解型読解力

### 1. 研究開始当初の背景

人工知能(AI)の飛躍的な進化による社会構造の大きな変化に伴い、学校教育が大きく問い直されてきた。2010年代後半、国語科教育では、児童生徒の読解力がAIの文章読解に劣るという研究成果から、リーディングスキルテスト(RST)を使った調査が行われ、文章構造の意味理解を促す指導が模索されていた。しかし、このRSTは同義文判定やイメージ同定といったテキストの文脈から切り取られた一文の意味を問う短絡的な言語理解のテストに過ぎない。

また、読解力に関しては2003年のOECDによるPISA調査の結果を受け、文部科学省では「読解力向上プログラム」を立ち上げている。読解力とは、テキストに書かれた情報に対する「理解・評価」(解釈・熟考)を自分の意見を論じるときに活用したり、テキストの構造や形式、表現法に対する評価を行うことと定義している。

しかし、21世紀型学力として、AIに代行可能な表層的な情報の理解や評価にとどまらない、より深い読解力を国語科教育で育成すべきなのではないか。これが本研究の問いである。

### 2. 研究の目的

本研究では国際バカロレア(International Baccalaureate、以下IB)がプログラムの基盤としている「概念理解」を探究することとした。IBとは、グローバルな視野を持つ人材を育成し、国境を越えて大学進学できる資格を授与する国際的な教育プログラムである。

IBプログラムでは、学習者が主体的に問いを探究する学習活動を通して、概念を理解し、学習スキルを身につけることを目標としている。「概念理解」について、筆者はエリクソン(2020)の2次元カリキュラム、3次元カリキュラムの理論を基に、図1のモデルを考えた。図1は知識とスキルの指導に特化し、教科毎に学びが分断されている知識暗記型の2次元カリキュラムの図である。図2は3次元としてのZ軸に「概念」の理解を立てることにより、学習者の視野が広がり、各教科の学びの本質を関連付け、体系的にとらえなおすことができる3次元カリキュラムの図である。視野が広がることにより、学校での学びを実社会にも関連付け、転移活用が可能となる。このように、理解したことを転移し、汎用できる思考の枠組みを育成することが読解力には必要であると考えた。そこで、本研究では、これを概念理解型読解力と定義し、その理論的背景および、指導方略の具体を明らかにすることとした。

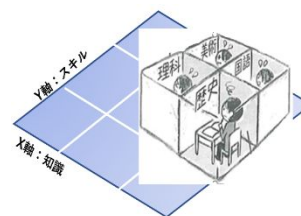


図1 2次元カリキュラムモデル

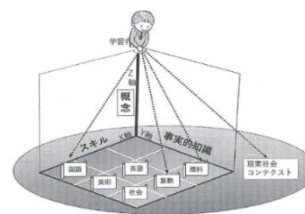


図2 3次元カリキュラムモデル

まず、IBプログラムにおけるにおける概念理解の理論的背景をふまえ、中等および高等教育の教科「言語A」で求められる概念理解型読解力を明らかにしていく。さらに、IB認定校での実践事例を基に指導方略とその効果を検証し、新たな実践開発につなげていく。そして、IB認定校だけではなく、一条校の国語科における新たな読解力向上を目指す授業開発につなげていくことを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### 3-1 国内外の文献収集・分析

IBが提供している教員向けの「指導の手引き」を始め、概念理解に関連する書籍、探究学習に関する国内の研究書籍や、DP、MYPの指導方略やエージェンシーに関する洋書など、広く収集し、分析した。コロナ禍のため、2020年度は文献収集に専念した。

#### 3-2 IB 主催教員研修への参加

IBOでは年に2回ほど、ワークショップという三日間の教員研修を開催している。このワークショップでは、教科指導者としての認定証(Certificate)を発行している。研修を通して、指導理論や単元設計の方略の情報を収集した。

2021年12月 DP Japanese A: Literature Category 2 (Japanese)

2022年1月 DP Japanese A: Language and literature Category 2 (Japanese)

2022年8月 PYP Making the PYP happen: Implementing agency Category 1 (Japanese)

2023年8月 PYP Leading the learning Cat 2 (Japanese)

2023年8月 DP Extended essay in focus: A one-day intensive Cat3 (Japanese)

### 3 - 3 国内外の実践参与観察

2020年度から2022年度にかけてはコロナ禍のため、学校訪問ができなかった。2023年度より学校の受け入れも可能となり、国内外の授業実践の参与観察を実施した。

- 2023年3月 広島叡智学園 広島英数学館
- 2023年5月 7月 東京学芸大学附属大泉小学校
- 2023年10月 広島英数学館小学校 AIC 国際学院京都初等部
- 2023年2月 さいたま市立大宮国際中等教育学校 開智日本橋学園高等学校
- 2024年3月 International School of Paris

### 3 - 4 国内外のIB教員との実践研究

IB国語研究会を開催し、国内外のIB校教員と実践事例の交流を通し、読解力育成の具体を探った。2020年度には7回、2021年度に6回、2022年度には9回、オンライン開催を行った。2023年7月29日・30日のサマーセミナーでは東京学芸大学を会場に对面で実施し、国内外のIB校教諭の参加を得て、日本文学 翻訳文学、映画の比較分析の実践発表を行った。2023年12月16日・17日のウィンターセミナーでは、国内外のIB校教諭の参加を得て、古典文学、グラフィックノベルの実践発表から読解の指導の具体を明らかにした。International School of Parisの石村清則氏による「個人口述試験におけるグローバルな問題の指導」の講演から、DP「文学」の読解指導のあり方を探った。

### 3 - 5 大学及び大学院における実践開発と効果研究

前項までの方法から得られた知見を基に、学部生を対象とした中等国語科教育法 で、中の国語科模擬授業づくりで、MYPのユニットプランを援用し、深い学びを促す探究テーマの開発を試みた。また、院生を対象とした「国語科の内容構成開発と実践B」において、概念的読解を踏まえた読解授業の開発を試み、学習効果を探った。

## 4. 研究成果

### 4 - 1 DP「言語と文学」における概念理解型読解力の解明と実践

2019年、DP「言語と文学」のカリキュラムが大きく改訂された。初めてDPに主要概念が設定されたのである(表1)。これまで、PYPとMYPではユニットプランの構成要素として、活用すべき概念のキーワードが設定されてきた。2019年にDP各教科に7つの主要概念が設定され、初等、中等、高等と連続した概念理解型カリキュラムが完成したのである。

PYPでは2007年から7つの特定概念を、探究の単元の指導過程の三段階で一つずつ設定し、学習活動を看取る観点を育成する。さらに、単元の理解目標として、普遍的で汎用性のあるセントラルアイデアを設定する。

MYPでは、2015年から、教科を横断する16の重要概念と専門教科で活用すべき12の関連概念、6つのグローバルな文脈を設定した。これらの3種のキーワードの一つずつ選び、単元の理解目標として「探究テーマ」を設定する。時間場所を問わず普遍的な真理、物事の本質をとらえた内容で、短い文章で表現する。単元のまとめではこの「探究テーマ」の理解を確認する。

DPでは、大学への推薦入試の基準となる成績を出すための4つの最終課題が設定されている。テキストの比較分析を論じる1500字程度の小論文試験(105分)や15分の個人口述試験などがある。「理解と解釈」「分析と評価」「焦点と構成」「言語」の評価基準で成績を出していく。

そこで、2020年度と2021年度は、最終課題で求められる読解力の分析を行った。DP「言語と文学」に導入された6つの概念が、最終課題の発問にどのように埋め込まれているかを明らかにした。テキストの比較分析を扱うペーパー2では、「概念」を用いて作品分析を行い、両作品の共通点・相違点の検討からオリジナルの解釈を導き、論じる力が求められていた。また、ハイヤーレベルの小論文で分析の観点として用いることが課されている。このように、DPにおいては中等教育までで習得した概念的な分析力を論述や口述によるパフォーマンス課題で試していた。これによって、真正の学びの質を評価することが可能となる。内容を質的に評価するにあたってはルーブリックが用いられており、評価方法が確立している。

また、DP「言語と文学」では、三つの探究領域「読者・作者・テキスト」「時間と場所」「テキスト間相互関連性」を設定した。これらは20世紀の文学理論を踏まえ、多角的に分析することを求めている。テキストと多様な価値観、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる読解力の育成を目指している。概念は三つの領域をまたいで理解をつなぐ働きをする。

この研究成果は、2022年5月の全国大学国語教育学会第142回・東京大会のシンポジウム「国語科のカリキュラムを考える 『コンテンツ・ベース』と『コンピテンシー・ベース』の対立を超えて」のテーマの中で「メディア・リテラシー教育カリキュラム研究の系譜 コンテンツ、コンピテンシー、コンセプト」という題目で発表した。IBのコンセプトベース・カリキュラ

表 概念の系統性

PYP 特定概念						
特徴	機能	原因	変化	関連	視点	責任
MYP 重要概念						
美的感性	変化	コミュニケーション	共同体			
つながり	創造性	文化	発展			
形式	グローバルな関わり	アイデンティティ	論理			
ものの見方	関係性	体系	時間、場所、空間			
MYP「言語と文学」関連概念						
受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル			
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現			
設定	構成	スタイル(文体)	テーマ			
DPF言語A)主要概念						
コミュニケーション	観点	変換	表現			
アイデンティティ	文化	創造性				



ムの重要性を論じた。

また、2022年11月の第143回・千葉大会では、3名のDP教員と「DP言語A「文学」「言語と文学」・文学作品の選択における観点 - ジャンル、グローバルイシュー、三つの探究領域をめぐって - 」と題したラウンドテーブルを開催し、DP言語Aにおける選書の観点を明らかにした。

#### 4-2 MYP「言語と文学」における指導方略の開発と概念形成モデル図の再構築

2020年度より、国内のMYP認定校の14名の教員と協働し、概念を活用した探究型授業を開発した。その成果は、明治図書より2021年10月に『「探究」と「概念」で学びが深まる！中学校・高等学校国語科 国際バカロレアの授業プラン』として出版した。それぞれの事例を通して、概念理解型の読解力が主体的対話的な探究活動を通して育まれる過程が明らかとなった。

これらの実践開発を通して、エリクソン(2020)が提唱する概念理解の中でも転移の幅の違いが判り、モデルを再構築した。

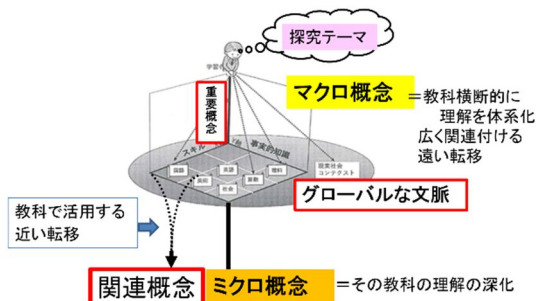


図3 概念理解モデル

MYPの重要概念は教科横断的な理解を体系化するものである。国語科で学んだ探究テーマを社会科の学習につなげたり、時事的なニュースに関連付けたりできるようになる。つまり、遠い領域まで転移を可能にする概念である、一方、ミクロ概念は、その教科の専門領域の中での狭い転移を促すものではあるが、学びを深める働きをする概念である。これらの理解を図3「概念理解モデル」に表し、本書に掲載できた。

#### 4-3 PYPにおける概念理解を形成する探究の単元設計の解明

2023年度は、MYP、DPで活用できる概念的な理解が、初等教育のPYPでどのように育成されるのかを明らかにすべく、4月より、東京学芸大学附属大泉小学校、NIST International School、静岡サレジオ小学校の教諭らとPYPの理論と実践の研究に取り組んだ。例えば、小学3年生の探究の単元では「創造性は、自分や他者との対話の中で発展する」というセントラルアイデアを掲げ、図形やダンス、作文などの活動から、理解を促していく。教科融合型の汎用性のある理解が育まれている。この研究成果は、明治図書から2024年10月に刊行する予定である。

#### 4-4 大学及び大学院における実践開発と効果研究

本研究の成果を踏まえ、中等国語科教育法で、概念理解型読解力を育む模擬授業づくりを実践した。現行の中高の国語科教科書から教材を選び、単元設計を行う。単元のまとめでは、概念的な探究テーマの理解を確認する。指導案作成に当たっては、学習指導要領に則った指導目標と共に、MYPのユニットを援用し、探究テーマを単元目標と設定させた。

● たいへん良く理解できた。	21
● 理解できた。	36
● どちらともいえない。	1
● よく理解できなかった。	0
● 全く分からなかった。	0



図4 探究テーマの効果に対する理解度

模擬授業では単元のまとめとなる授業を実施し、概念的問いをまとめの課題とした。ある学生は『竹取物語』を扱う単元で「芸術は人の負の側面を描く」という探究テーマを作った。この概念的な探究テーマは、『竹取物語』の理解だけでなく、絵画、音楽、小説など他の芸術作品の理解にもつながる。転移し、汎用できる概念理解型読解力である。

2023年度秋学期末のアンケートでは、「深い学びを促す探究テーマと普遍的で汎用性のある理解を促す問いの効果を理解できたか。」という問いに対して、ほぼ全員の学生が理解できたと回答していた。一条校の国語科においても、概念理解型読解力の指導の可能性があると看取ることができた。

また、院生を対象とした「国語科の内容構成開発と実践B」の授業で、DP最終課題ペーパー2の指導方略を援用した。三島由紀夫『近代能楽集』と夏目漱石『こころ』と能楽との比較分析を行った。概念理解型読解力を活用することで、社会や世界との関わりの中で、古典で学んだことの意義を実感する実践の可能性を見出すことができた。

### 5 成果と課題

本研究の成果は、これからの国語科教育で普遍的で汎用性のある理解につながる「概念理解型読解力」を育成すべきであることが見出されたことである。ただし、その効果は学生と院生の反応から授業開発の可能性を見出したに過ぎない。今後は、小中高の現場を長期的に参与観察し、概念理解型読解力の実践開発と、その効果を検証していくことを課題とする。今後も、国語科を軸に、概念型読解力を育成する学際的探究学習のあり方の研究を継続していく所存である。

参考文献

エリクソン(2020)『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践』北大路書房

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中村純子	4. 巻 92
2. 論文標題 メディア・リテラシー教育カリキュラム研究の系譜 コンテンツ、コンピテンシー、コンセプト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 pp.11-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20555/kokugoka.92.0_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 純子、小林 真大、杉本 紀子、岩瀬 丈	4. 巻 143
2. 論文標題 DP言語A「文学」「言語と文学」・文学作品の選択における観点 ジャンル、グローバルイシュー、3つの探究領域をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集	6. 最初と最後の頁 283～286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20555/jtsjs.143.0_283	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村純子	4. 巻 63巻2号
2. 論文標題 17 国際バカロレア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育科学 国語教育 NO.854	6. 最初と最後の頁 68 - 71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村純子	4. 巻 63 / 2
2. 論文標題 国際バカロレア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育科学 国語教育 No854	6. 最初と最後の頁 68 - 71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中村純子
2. 発表標題 メディア・リテラシー教育カリキュラム研究の系譜 コンテンツ、コンピテンシー、コンセプト
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第142回 東京大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村 純子, 小林 真大, 杉本 紀子, 岩瀬 丈
2. 発表標題 DP言語A「文学」「言語と文学」・文学作品の選択における観点 ジャンル、グローバルイシュー、3つの探究領域をめぐって
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第143回 千葉大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村純子 関康平 間瀬茂夫 杉本紀子 浅井悦代
2. 発表標題 ラウンドテーブル「中学校高等学校国語科・国際バカロレアのMYP授業づくり ～「探究」と「概念」で学びが深まる！～」
3. 学会等名 全国大学国語教育学会 第141回 世田谷大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中村純子 関康平 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 144
3. 書名 「探究」と「概念」で学びが深まる！ 中学校・高等学校国語科 国際バカロレアの授業プラン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------